Aブロック全作品と講評

作者さんや読み手さんの声は

http://www.columnland.net/

へどうぞ。

A-1

七

一人の力じゃ何もできない
そんなひ弱な僕だけど
個性的で刺激が強い
七の仲間が一緒だから
怖いものなんて何もない
みんな一緒ならなんだって
変えることができるんだ

味

A−2

母になった猫

不思議な思い出がある。

猫は七つの命を持っているって、確かそれはなにかの絵本で読んだフレーズだったと思う。人よりも多分に夢見がちな子供だった私には、それは十分に説得力のある言葉だった。猫はすごく可愛くて、だけどすごく自由で、それからちょっと謎めいていて、だからたくさん命を持っていたっておかしくはないなと、そう私には思えたのだ。しかし、当然ではあるのだけれど、同じ学校の友達たちは誰も共感してくれなかった。そんなわけないじゃないかって言って、みんなで私を馬鹿にした。みんなで私を笑った。すごく、すごく悔しかった。

学校裏の神社に住み着いていたミーヤが子供を産んだのはちょうどそのころのことだった。ミーヤというのは茶色いまだらの野良猫で、私の一番の友達だった。初めて出会ったのはある夏の日の夕立のなかで、ミーヤは私のあげた菓子パンをすごくおいしそうに食べた。残念なことに私の家はアパートだったからミーヤに首輪をつけてあげることはできなかったのだけれど、代わりに毎日餌をあげた。給食のパンをあげたり、晩御飯の焼き魚をあげたり、たまにお小遣いをもらえたりすればそれは全部キャットフードにかえた。子猫たちが産まれてからは、子育ての手伝いだってやった。子猫たちは私にもよくなついてくれて、本当に可愛かった。それでそのころの私は以前よりも頻繁にミーヤたちのところに通うようになっていた。だから、みんなから笑われたその日の放課後にも、私は長い長い階段をのぼって学校裏の神社に行った。

その日ミーヤはちょうどどこかに出かけていて、私が作った段ボール製の小屋の中には四匹の子猫たちだけがいた。母親になってからのミーヤはずっと子猫たちにつきっきりだったので、私と子猫たちだけという状況はそのときがはじめてだった。今思えば、それであんな馬鹿なことをしてしまったのかもしれない。七つあるといってもやっぱり大切なもののはずだからと躊躇していた私があんなことをしてしまったのは、まだミーヤがいないうちに帰しておけばきっとばれないだろうって頭のどこかで考えていたからかもしれない。そう、私は試してみたのだ。私は正しいんだって証明したくて、それで、子猫を一匹殺してみたのだ。

最初は石で頭を潰そうと思って、だけどやめた。私の力では殺すのに時間がかかってしまうかもしれないと思ったからだ。それで私は子猫を家まで連れて帰った。そこには包丁があったし、夜までは母も父も帰っては来ないはずだった。だから家でなら誰にも気づかれずに試せると思った。心配していたより子猫は暴れなかった。とっておきの猫用のミルクを皿に注いであげたらそっちに夢中になってしまって、それで私のかざした包丁に気付けなかったからだと思う。思い切り突きさした包丁はあばらの隙間を縫って反対側まで貫通した。赤い血がだくだくと流れだして、すぐに子猫の体は冷たくなった。もちろん、生き返ることなんて、なかった。本当に当たり前に、子猫は死んだ。でも私はそれが信じられなかった。だから、生き返らないのはまだ完璧に死んでないからなんじゃないかって、そう考えた。じゃあしっかり殺さなきゃいけないよねって思って、何回も何回もお腹を刺した。首を切った。頭を砕いた。こぼれおちた内臓が指先に絡みついて、それがすごく邪魔だった。

頬に強い痛みを感じたのは、自分のしたことの残酷さにようやく気がついて呆然としているときのことだった。自分が平手で叩かれたのだとわかって顔をあげると、そこには母の姿があった。何をしてるのと怒鳴られて、私は泣いた。ごめんなさい、ごめんなさいと、馬鹿みたいにただそれだけを繰り返した。もうこんなことをしてはいけないよと言い含められて、何度も何度もうなずいた。そして私が泣きやんでから、一緒に子猫のお墓をつくった。

それから結局、私はミーヤにあうのが怖くって、神社にはいかなくなってしまった。この苦いばかりの思い出をしっかりと見つめ直せるようになったのは、全く恥ずかしいことに、最近になってからのことだった。それで私は、この間の二十歳の誕生日の夜に、あのときは本当にごめんなさいと改めて母に言った。けれど、いくらあの日の話をしても、母は覚えてないと言うのだ。あなたがそんなことをしたら絶対に忘れないはずだけど、全く記憶にないと。

だから、いまだに夢見がちな私はついつい思ってしまうのだ。あの日、私を叱ってくれたのは、実はミーヤなんじゃないかって。ミーヤが母になって、子猫を取り戻しに来たんじゃないかって。

A-3

『戦争がなくなりますように』
『こないだの遅刻がなかったことになります様に』
『お金がほしい』
何じゃこりゃ

七夕の日、笹の前で待ち合わせをしようと言ったのは僕だ。僕は彼女が来るまでの暇を、短冊をみて潰していた。
ここは、大学生協の前。学生の願い事が飾られるためか、まともな願い事から意味不明なものまで、好き放題に下げられていた。

『恋がしたい!!』
野獣だ
『お前なんかにわかってたまるか』
逆恨みだ

段々とんでも系が増えてきたなと思ったころ
「ワタルゥ☆、お待たせ」
彼女が来た.
「うわぁ、短冊だ!アタシ願い事書っこうっと。ワタルも書くでしょ」
はしゃいでいる彼女を横に、僕もペンをとる。くっ、書けねえ。さっきまでのくだらない願い事ばかり頭にちらつく・・

「ほら、行くぞ」
「えっ?願い事は?」

「・・・そんなの、お前が叶えてくれるだろう」
僕は少し赤くなりながらそう言った
「・・・」
彼女が黙ってしまったので、あわてて僕は目をそらす
「あっ!」
彼女の指差した方を振り向いたその瞬間、僕はほっぺたに柔らかいくちびるを感じた

A－4

煮豆燃豆萁　豆在釜中泣　本是同根生　相煎何太急

理由は特に無い。ただ印象に残ってしまった、それだけのこと。

私の兄は漢文を好んで読む人だった。よく中学の図書館で司馬遷の史記などを借りてきては原文で読破していたのを覚えている。

私の兄は私にとっての憧れであった。現代語訳ですら私にとっては随分と背伸びした読み物であったが、それでも私はとにかく兄の模倣をしたがった。が、余程相性が悪かったのか、頭に残ったのはただ一つの漢詩だけであった。もっとも、漢詩の意味は分からなかった。なんとなく記憶に残ってしまっただけであった。

七年が経ち、私は兄と大喧嘩をした。

私と兄の性格は全く正反対であった。私のすることは兄に不快感を与え、兄の云う事は私を不機嫌にさせた。いつしか、兄と私が口をきくことはなくなった。

そんな時、私はふと一つの漢詩を思い出した。記憶は断片的であったが、調べてみると兄の影響でたまたま覚えていたその漢詩は、一般に「七歩詩」として知られているものであると知った。

魏の曹植が兄・文帝と不和になった際、「七歩歩く間に詩を作れ」と言われたのに応じて作った詩であるそうだ。

豆を煮るに豆萁を焼く　豆は釜中に在りて泣く　本是れ同根に生ぜしに　相煎ること何ぞ太だ急なる

（豆を煮るのに、豆殻を焚く。豆は釜の中で泣く。本々は同じ根から生まれた物なのに　どうしてそんなに激しく攻撃してくるのか。）

弟を殺そうとすら思っていた文帝は、弟のこの詩を聞くと涙したそうである。

私は、どんなに仲の悪い兄弟の間にも兄弟愛は存在していることを知った。私は、この詩を自分が記憶していたのが本当に偶然であったのか疑わしくさえ思った。けれど、自分の中に潜んでいる想いも、自分の中から溢れてくるものも疑うことはできなかった。

他意は特に無い。ただ気づいたら涙していた、それだけのこと。

A-5

⑰

You are sixteen, going on seventeen. Baby! It's time to think.
そんな歌を初めて聞いた時　あたしはまだ十歳かそこらで
seventeenなんてまだまだ先のことだと思ってた

I am sixteen, going on seventeen. Innoccent as a rose.
そんな歌を歌う少女のように　十六のあたしはInnocentじゃなかったし
彼女のような甘い悩みもお呼びじゃなかった

You are sixteen, going on seventeen...
そんな歌をふと口ずさむ今となっては　あたしはもう十九で
何も考えずに通って来た時間をちょっぴり悔やんだりもする

戻れないし　戻りたい訳でもないけれど

I am sixteen, going on seventeen...
そんな甘い響きを懐かしんでみる

A－6

JULY　7TH

七歳

ゲームソフト……かな

ヨーヨーもいいな

十七歳

当然彼女だな

人間関係もあるしな

あーけど志望校もゆずれないな

七十歳

世界平和……そんな器じゃないな

実際長生きとかかな

二〇〇八年七月二日

A-7

インタビュー

今年から始まった『最も抱かれたい数字』ランキングで一位を獲得した数字と言えばそう【七】だ。今回本誌はこの【七】の魅力に迫ってみた。

—まずは『最も抱かれたい数字』ランキング一位おめでとう。緊張しているね（笑）。

「ありがとうございます。実はマネージャーさんから週刊数字さんのインタビューの仕事が入ったのを今日の朝聞いて。今は頭の中が真っ白です（笑）。」

—それは大変だね。だけど、質問にはちゃんと答えてもらうよ。なんたって君は今数字界で一番の人気数だからね。全ての数字が君の一挙一動に興味があると思うよ。

「そんなことないですよ。正直今回のランキングではぶっちぎりで【一】さんが一位をとると思ってました。ここだけの話ですが僕も【一】さんに票を入れました（笑）。」

—確かに去年この企画をやっていたら【一】の独り舞台だったかもしれないね。だけど、今年の君の活躍ぶりはこの栄冠に値するよ。特にルーレットの一件ではね。

「あれは、自分にとってもとても良い経験でした。その日誰も僕に賭けなかったのに最後の最後で大冒険してもらって（笑）。そしたら見事玉がポケットに入って。絶対に離さないと思いましたね。」

—あの場面はリアルタイムで僕も見てたよ。久しぶりに燃えたね。

「自分でも興奮が冷めなくて。家に帰ってもずっと二人で七並べをやっていました（笑）。」

—おっとまだ興奮が冷めていないようだね。七並べを誰とやっていたのかな？

「あ…僕の悪い癖ですね。実は【八】さんと同棲させてもらっています。」

—さすがに色数字はちがうね。【八】さんといえば、数字界きっての美しさを持つ美数だ。

「そう…かもしれませんね（照）。彼数とても七並べが上手くて何度も負けましたよ。」

—へえ。【八】さんのどこに惹かれたのかな？

「うーん。漢数字でもアラビア数字でも左右対照なところですかね。やっぱり自分の持っていないところを持っている数はどうしても魅力的にみえます。末広がりで縁起が良いという部分でウマが合ったところもありますかね。」

—ずいぶんノロケているね（笑）。子供の名前はやっぱり【十五】かな？

「まだ早いですよ（笑）。でも加法かぁ…。いいですねそれ。考えときます。」

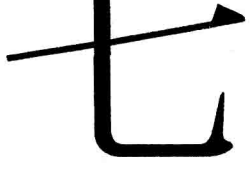
—ははっ。僕が名付け親になっていいのかい？まぁ僕としては有名数と親密になれば仕事がかなりやりやすくなるがね。

「確かにそうですね（笑）。やめときます。」

—ひどいなぁ。おっともうこんな時間だ。今日はありがとう。

「いえいえ、できれば【八】さんとのことはカットしてくださいね（笑）。今日はありがとうございました。」

おまけ　グラビア



A-8

晴れの空は青色で、
雨の空は黒色で、
海から空まで同じ色をしている。
その間に存在している私達なんてちっぽけで、その色にのみ込まれてしまいそう。
そんな私達と、空と、海とを繋いでくれるのは、雨から晴れに変わった時に唯一出来る、空と地面の間に出来る七色の架け橋。
あの橋を渡って、いつか海と空を往復出来る日が来るのだろうか。

A-9

7日の夜

一年ぶりに君と会えることができた。
でも時間はわずか、
この少ない時間をたいせつにしよう。
何をしようか、なにを話そうか。
でも、案外なかなか思いつかないな
そんなことを考えている間に、
もう時間。
長くも短くもある一年間
また、待ってます。

A-10

My best place

一週間は七日間あるけど、

僕はそのうち一度はあの場所に行く。

そこでは、タダで本が読め、

欲しいものはほとんど手に入る。

なにより至る所にあるのがすばらしい。

牛乳瓶などもあるけれど、

やっぱり僕はあそこがいい。

「7」と大きく書かれたあの場所が…

A－11

地球の7人の兄弟

六男、水星。曲がったことをまだ知らない（自転軸の傾き0．01度）、熱い心をもった（平均温度179℃）優しい少年。夜は別人のようにおとなしい（最低気温氷点下183℃）。まだまだ兄、姉たちにパシリに使われる（マーキュリー（メルクリウス）、神々の使いの神）かわいそうな子。

今どきな次女、金星。容姿端麗の恋する（ヴィーナス、愛と美の神）少女。思春期でよく周りに反発する（自転方向が他惑星と逆）のだが、実は非常にのんびり屋さん（一日（日が昇って落ちるまで）が、地球でいう117日）。

性格の荒い四男、火星。少し乱暴（マーズ、軍神）で、いつも2人の仲間、フォボスとダイモス（火星の2つの衛星）を連れて歩いている、いわゆる不良。あまり家にいないせいで、最近地球の友人が部屋に住みつこうとしている（火星のテラフォーミング計画）。

器の大きな三男、木星。兄弟随一の巨体で一番背が高く、一番重い（全惑星の質量和の2．5倍）。その見た目に相反して、性格は温厚で起伏が少ない（季節変化がほとんどない）。その気質故に、慕う人は多く（63個の衛星を持つ）、リーダーシップも高い（ジュピター、ギリシア神話におけるゼウス、神々の王）。

女好きの次男、土星。三男に次ぐ長身ながら、意外にも軽い（密度0．68g／立方cm）。見た目はあまりにもパンキッシュで、なんと合計74個ものアクセサリーを身につけている（63の衛星、11の環）。野菜好き（サターン、農耕の神）のヘルシー志向。

異端児の長女、天王星。兄弟の中では特に異質な存在で、ひねくれ者（自転軸の傾き97．86度）。名付け親が他と違うことから、生まれつきの異端児かも知れない（ウラヌス、天空の神。他惑星はローマ神話に由来する名だが、ウラヌスだけはギリシア神話に由来する）。

目立たない長男、海王星。自分のことを表に出さない性格（地球から最も遠いだけに謎が多い）だが、しっかり者で、既に自立している（内部熱源を有し、太陽から受ける熱の2倍近い熱を自ら供給している）。海が好きで（ネプチューン、海の神）、青を好む（大気中のメタンの影響で美しい青色をしている）。

お願いです。家出してしまった最後の兄弟をどうか探してください。名前はめいおうせいです。

A-12

今年の七夕は
大雨でも君に
逢いにいける
荒れる大河の
はるか彼方へ
この水着着て
きみのもとへ

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	七味	6 pt	4 位	1 sp
		ピリリと辛い心意気。レイアウトのコンパクトさも、みごとに体をあらわして、七味君のテーマソングも頼もしく、今週の始まりです。 特別賞：サン賞（山椒は小粒でピリリ） イチオシフレーズ：「七味」		
A02	母になった猫	4 pt	5 位	0 sp
		うぐ。ほのぼの展開かと思いきや、包丁振り回してのすさまじい場面へ、そしてラストは救いのソフトランディング。起伏に富んだストーリー運びでした。 子どもって、ここまでする？　お母さん、お墓つくっておしまいじゃダメでしょ、といった途中の謎が、ナイトメア、さいごではらり解けて、少しだけほっとしました。 イチオシフレーズ：「こぼれおちた内臓が指先に絡みついて、それがすごく邪魔だった」×２		
A03	無題（短冊）	2 pt	7 位	1 sp
		短冊のおもしろさから、さくっと読者を引き込んで、軽妙なラブコメで楽しませていただきました。 妄想妄想、きっと妄想。まあ、おしあわせに、の言葉をお贈りしておきましょうか。今週のイチオシフレーズ大賞とともに。 特別賞：青春賞（青春ですよね） イチオシフレーズ：「ワタルゥ☆」×３　「そんなの、お前が叶えてくれるだろう」×２		

A04	煮豆燃豆?　豆在釜中泣　本是同根生　相煎何太急	10 pt	3 位	0 sp
		「マメガラ」の文字がWebに乗りそうにないけど。 漢詩のとっつきにくさを体験に引き寄せて語ることで、分かりやすく語っていただきました。ただ、何だかお題に合わせて作った感。兄弟喧嘩のワケとか、自分史のほうをもう少し肉付けすると、もっと感慨を乗せられたのでは。 それでもさすがの筆力で三位まで上げてきた先週の覇者さんの作品でした。		
A05	17	3 pt	6 位	3 sp
		セブンティーン。輝きの時は、過ぎ去って、いとおしむもの。そのただなかにいると、気づく間も、味わうゆとりもなく、あっけなく過ぎ去ってしまうもの。 おなじみの歌のメロディに乗せて、軽やかに、でもさらりと本質を衝いた洞察でした。最多特別賞タイとなりましたね。 そうそう、タイトルへの機種依存文字の使用はお避けください。 特別賞：あの頃にもう戻れないでしょう（もう二十だよ・・・）　/　音楽鑑賞（歌ってる感じがする）　/　nice rhythm prize（リズムがいい、素敵な作品） イチオシフレーズ：I am sixteen,going on seventeen		
A06	July 7TH	0 pt	11 位	1 sp
		七夕の願いを世代差で見せて、というアイディアは良かったと思うのですが、ひとりひとりの願いを短冊型にするなど、見せ方をがんばるともっと映える作品になると思います。 特別賞：年をとってますで賞（世代を感じるから）		
		28 pt	2 位	3 sp

A07	インタビュー	「おまけグラビア」がTAさんに大人気、フロアでも大人気で、ついにイチオシフレーズ大賞もさらいましたね。 もっともらしい雑誌インタビューの型をぱくっといただいて、そこにネタのかずかずをはめこんで、うまいうまい。おめでとう同棲！　おめでとう銀メダル!! さらにがんばって、雑誌っぽく見出しなんか打ってみると、より楽しいのでは。 特別賞：七番目で賞（七のこだわり）　/　番号とお題がかぶってるで賞　（グラビアがよかった）　/　最も抱かれたい数字ランキング１位 イチオシフレーズ：「おまけグラビア七」×４　「でも加法かぁ…」		
		2 pt	7 位	0 sp
A08	海と空と私達	海と空という広がりの中にアクセントとして虹を置いて、詩的風景がここちよい。 これもレイアウトを工夫するともっときれいになるのに。		
		2 pt	7 位	0 sp
A09	７日の夜	「また、待ってます」。ラスト１行でコケました。とてもあっさりした七夕の逢瀬。これくらいライトだと、伝説の大ロマンスも肩が凝らなくていいね。 ゆるキャラ彦星さん、といったところでしょうか。いい味です。		
		0 pt	11 位	1 sp
A10	My best place			

		ゆるキャラ彦星さんが待ってるのが、きっとセブンなんだぜ、ということで、とても似たレイアウトの２作品を上下に並べてみました。 　牛乳瓶が、あローソンね、と分かるとより楽しい。なるほどなるほど。 特別賞：いい気分で賞（711） イチオシフレーズ：「牛乳瓶」		
A11	地球の７人の兄弟	32 pt	1 位	2 sp
		太陽系ファミリー。着実な知識を踏まえて、それぞれの性格がみごとに描き分けられて、こんな家族、いたらいいなーと憧れられる、しゃれた天文図鑑でした。一家に一冊、ぜひどうぞ。おまけグラビアさんとの接戦を制しての価値ある首位、太陽系の果てまで、おめでとう!!! 特別賞：委員長特別賞（よく調べてあるから）　/　その調査力でめいおうせいはあなたが探すとよろしいで賞（よく調べたね）		
A12	無題（水着）	1 pt	10 位	3 sp
		何と言っても「水着」のインパクト大。もちろん、レーザーレーサーだよね。がんばれ彦星くん、とエールを送ってパワフルに、今週の読み納めです。最多特別賞タイという評価をいただけました。 特別賞：LZR　Racer賞（男が水着を着て天の川をわたる光景が地味に面白い）　/　海パンで賞　/　スピード社なのか！？（スピード社なのか変態なのか）		

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
B01	午前七時のあいのうた	10 pt	3 位	1 sp
		風見鶏に恋するニワトリ。谷山浩子さんリスペクト、といったところでしょうか。 メルヘンメルヘン♪　なつかしのメロディを心に響かせながら読みました。 あのahbo が！ ほのぼの転じて、驚愕の表紙となりましたとさ。（←「とさ」使用２度め） 特別賞：あいちゃんで賞？（あいちゃんが好きな人がいたから。） イチオシフレーズ：「ココヨココヨと呼びかける」		
B02	しちしちしじゅうく	3 pt	10 位	0 sp
		押しつけられた背番号に、それなりの思い入れが育まれるまで。ていねいにあとづけて共感を誘います。 でもさいご、やっぱり捨てちゃうんですね。そこがちょっと残念。		
B03	七堂さんとあたし	5 pt	6 位	1 sp
		ありふれていない、しあわせのカタチ。だから新鮮。こんなヤツ、いないだろーと思いつつ、ありありと見えてしまう七堂さん。だから共感。 描写力、あざやかでした。悲劇から離れ、しあわせ色でまとめましたね、お嬢様。 特別賞：７賞（七をたくさんつかっているので）		
B04	老人の最後	23 pt	1 位	0 sp
		女かウルトラマンセブンか――何という二択！ 女をウルトラマンセブンと見誤る――何という人生の終わり！ このぶっとんだ発想力にブラボーです。モデルとなってくださったおばあさまに、謹んで心の金メダルをお届けくださいませ。首位おめでとう!! イチオシフレーズ：「顔と首とが別の人」		

B05	七色の道	1 pt	12 位	0 sp
		戦隊モノのテーマソングか、というような、まっすぐな未来志向が爽やかに奏でられます。 力強さは伝わってくるのですが、でも、この七人の正体は？？ イチオシフレーズ：「プリズムが一色の光を分けるように……」		
B06	七月のマウンド	19 pt	2 位	3 sp
		ラストが熱い。そうかこいつ、人知れず練習してたのか、と。 この熱さに行き着くまで、ていねいにていねいに状況を立ち上げたからこそ、渾身の重たいボールがすっぽり読者のミットに収まります。 夏だ、甲子園だ、ど根性だ。スポーツものの王道ですね。おめでとう銀メダル!! 特別賞：青春賞（いいなぁ） /　高校野球今年も観ま賞（Rookiesに感動したから） /　黄銅賞（王道だから）		
B07	人生論	3 pt	10 位	2 sp
		タイトルすら本文と同じ仕様という、超やる気のなさ。 ３０代も４０代もメタボで終わらせちゃう、超手抜き。 そこが、なぜかＴＡさんたちのツボだったもようです。 メタボ効果で、みごと今週のイチオシフレーズ大賞ゲットです。おめでとう。 特別賞：やせま賞（メタボ） /　もっと楽しく生きま賞（人生終わるの早い） イチオシフレーズ：「Ｂ－７」（あえての）「３７才メタボ」「５７才　不能」「メタボ」		
B08	無題（カチャ）	4 pt	7 位	1 sp

		宿命の恋。映画の内容をはさんで、ベタ甘ムードが、一転しんみりムードへというメリハリもしっかりできていて、音で始まって音で終わる、舞台劇のような演出も巧い。 形はできているので、あとは、お話の内容をもっとユニークにしたいところ。 特別賞：官能的でしょう イチオシフレーズ：「E判定のクセに」
B09	The Seven's Slaves	8 pt　4 位　2 sp まさに怒濤の勢いで持っていってくれました。 サーフィンサーフィン、波に乗った者の勝ち。これだけ起伏のある人生を送っていたら、楽しくて良いですよね。むしろ怖いのは夏休み？？ 特別賞：金曜日で賞（共感）　/　共感できるで賞
B10	一を聞いて…	4 pt　7 位　0 sp 卓越した世界構築力にうなりました。人の社会のしくみは、合理的に練り上げられているようでいて、じつは全然そんなことはない。偶然の積み重ね、不完全でいきあたりばったりの産物。十進法だって、民主主義だって…… そんな世界観が根底にあるような。
B11	ことわざ（「七転び八起き」）ついて本気だして考えてみた	4 pt　7 位　4 sp ７回転んだら７回しか起きあがれないじゃん。 言われてみればヘンだよねポイントをさくっと衝いて説得的。楽しく読める工夫も◎。 ポイントはそれほど伸びなかったけれどアイディアのユニークさが評価されて、最多特別賞＆今週のイチオシフレーズ大賞のダブル受賞です、おめでとう!! 特別賞：∞賞（∞回立ち上がる努力に！）　/　おじいちゃんマジパレーで賞（某アーティストっぽいから）/∞＝８賞（よく考えられていて気づいた時気持ちよかった

		かな）　/　起きあがりま賞（複雑な精神に心を打たれました） イチオシフレーズ：「俺は∞回立ちあがってみせるさ！」×４
B12	輪舞曲	6 pt　5 位　1 sp 　天に七夕、地に家族。「明日も今日であればいい」 いいなあ、このお父さん。今のこのぬくもりをたいせつにしたい、という願いがしっかり伝わってきました。 　おやすみなさい、とおだやかに今週の読み納めです。 特別賞：社交ダンス一級で賞（ロンドだから） イチオシフレーズ：「ただいま～」「明日も今日であればいい」×２